

委員会活動報告

創立30年までの委員会活動

協会設立30年にあたる平成10(1998)年には、社団法人東京都ペストコントロール協会の活動は、技術、経営、会計、広報、害虫相談所、教育、機関誌、安全衛生、総務、渉外の10の委員会により行われておりました。平成30年には、総務、技術、害虫相談、感染症の4委員会に集約され、東京都の衛生行政に協力し、都民が安全に、安心して暮らせる衛生的な環境づくりに向けて努力を続けております。

会員の皆様には今後ともご協力をお願いするとともに、東京都や関係諸団体のご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

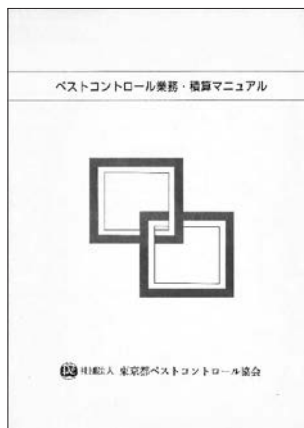
経営委員会(経営委員長:坂東一正、30年史より転載)

社団法人東京都ペストコントロール協会創立30周年を迎えるに当り、協会会員として心からお祝い申し上げます。そして創立以来、協会事業の発展にご尽力された多くの先輩各位に深甚の敬意を表するものであります。顧みれば早いもので、私が経営委員会を担当させて頂きましてから既に5年目を迎えました。創立30周年を記念して、ここに経営委員会の歩みを回顧し、併せて今後の委員会活動を展望し、皆様のご理解をお願い申し上げる次第であります。皆様もご承知の通り、委員会発足以来、「協会の会員に必要な経営関係の問題は何か」について、初代委員長の元木貢氏を中心に討議を重ね完成したのが「有害生物防除積算資料」の発刊でありました。お陰様で全国のPCO関係者にご好評を得ることができました。当時の委員は以下の通りです。(委員長)元木貢、(委員)相原甫、金沢良浩、紅谷一郎、富岡稔、坂東一正、八木秀蔵、湯沢道雄、芝生幸夫(敬称略)。次に、平成8年より「管理職セミナー」を顧問の片野鍾太郎先生にお願いし、毎年実施して参りました。このセミナーは、経営方針の浸透、顧客満足度の充実、管理活動の徹底という3項目を「問題解決学習」を通じて習得するプログラムです。さらに、今後経営活動に不可欠となるパソコン活用を視野に入れた「特別講習会」を理事・紅谷一郎氏を中心とする講師陣に依頼し実施中であります。この講座もさらに継続していく所存であります。経営委員会の活動テーマとして、「資料編集・発行」があります。会員の皆様のご意見を拝聴しながら、今後も有効情報の収集に配慮しながら、鋭意進めさせて頂く方針でございます。また、社員用教材として「仕事の基本とビジネスマナー」(新入社員用)を発行致しましたが、今後も「新入社員の心構え」を検討していく方針であります。以上、当経営委員会の歩みを具体的な活動面からご披露致しましたが、毎年5回の会議を重ねる中で、来るべき21世紀のPCO、その新たな課題についても、特別委員会活動を実施し、今後も継続実施を重ねる方針であります。多様な社会的ニーズへの対応、深刻化する環境問題とPCOの課題、感染症関連へのダイナミックな対応など、大都市東京の安全のために会員の皆様とともに、地味でも着実な日々を重ねたいと念願しております。協会創立30周年という記念すべきこの秋、経営委員会の歩みと今後の課題についてご報告申し上げ、今日から始まる新たな歴史の上で、更なる協調と発展

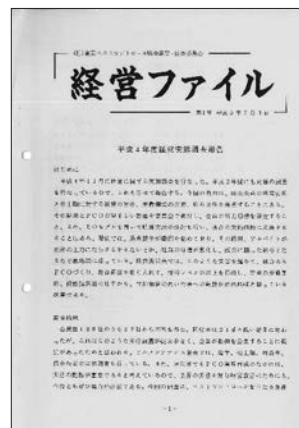


を期待しながら、ご報告申し上げる次第であります。

末筆ながら、皆様各位のご活躍をお祈り申し上げます。



ベストコントロール業務・積算マニュアル



経営ファイル

追記

PCO研修シリーズ

NO1 「仕事の基本とビジネスマナー」(1998)

NO2 「PCOの仕事と課題」(2000)

NO3 「PCO管理職の仕事と課題」(2002)

教育委員会(教育委員長:野口貢、30年史より転載)

教育委員会の最大の行事は、毎年開催されます「衛生害虫防除業の従事者研修会」であります。この会も本年度で既に第19回を数える伝統の研修会となっております。法的にもビル管理法に基づき、事業登録業者に義務づけられた従事者の研修会ですので、年に1回ながらも多数の方が参加されます。内容的にも「薬剤等に関する知識の普及」「害虫等の防除技術」「環境衛生全般」等々の講演が行われます。登録業者以外の事業者や、行政の窓口担当者等々の皆様も参加されており、それぞれが真剣に耳を傾けております。そして参加者から毎年「来てよかった」との声も聞かされ、賛助会員の機器展示を熱心に見学されております。その他に、未整備事業所への指導、青年層への指導事項の徹底等、幅広く活動を行っている次第です。今後とも各講習会・研修会を更に積極的に行って参りたいと思います。



安全衛生委員会(安全衛生委員長:金子秀五郎、30年史より転載)

創立30周年記念おめでとうございます。多数の先駆者があっての事、その方々に心より深く感謝致します。さて、私、当協会の安全衛生委員を仰せつかって2年、これと云った事もやってない現状、でも昨年12月に東京都と共催で講習会を実施致しました。多数の参加者もあり大変盛況でした。常日頃考えられる重要な事はひとつに企業の安全、即ち社員1人ひとりの日常の安全、作業の安全や交通安全、生活の安全など沢山あります。また、衛生面では地球の環境問題や身近な生活衛生、食品



衛生等々が考えられます。これらを総称して安全衛生と呼ぶ事と思います。会員の皆様には、労働安全を考え呼びかける事と致したく思います。実態調査やアンケート調査は既に(社)日本PCO協会で実施されている事であり、私はもっと身近な事をやり度いと思います。皆様のご協力をお願い致します。或る先輩が云い残した言葉を借りて、3つの(安)、即ち安全、安心、安定、これが企業の発展につながると云う安全衛生もこれを参考にしたいと思います。

広報委員会(広報委員長:紅谷一郎、30年史より転載)

広報委員会は、協会・業界のPR及びパブリシティを担当しています。

○PR

委員会は事務局と連携して、地域社会や消費者、監督官庁や需要先企業、また会員各社に向けて各種情報を提供してPRに努めています。中でも、害虫の生態から駆除方法まで分かり易く解説したパンフレット「PCOシリーズ」(写真)などが都民に好評です。



ちなみに機関誌委員会において、会員各社及び全国のペストコントロール協会、区役所、保健所に向けて機関誌を年2回発行して、啓蒙・情報発信を行っています。今後は機関誌委員会・事務局と連携し、随時発信可能で24時間見られる、インターネットのホームページや電子メールを使ったPRも行いたいと考えています。



○パブリシティ

業界紙・マスコミに向けて情報発信を行っています。またマスコミの取材申込に積極的に協力し、情報提供を行っています。

機関誌委員会(機関誌委員長:大村通明、30年史より転載)

東京協会30周年おめでとうございます。協会業務のお手伝いをさせていただいてまだ日も浅いわたくしどもですが、関係各位、協会員のみなさまのご尽力の賜物と心より感謝そして御礼申し上げます。着実に進歩しながら積み重ねる年月のご苦労も多々あったと思われれます。30周年は、まさに21世紀へ突入する前のひとくぎりであり、通過点とは考えますが、時代の激しく様変わりする中の記憶に残る年ではないでしょうか。さて、この記念する30周年の年に、私どもも、個人的に忘れられない出来事が起こりました。11年7月21日に、都内、特に練馬近辺に、時間あたり108ミリという大雨が降り、私ども練馬に在住しており、近所界限の方々と同様に、床上浸水の被害をうけることとなってしまいました。被害場所に居合わせた私としては、まさに緊急災害対策の重要性をひしひしと感じましたが、また対応できる体制づくりの課題も感じた次第でございます。一協会員として、さらに気を引き締めて業務活動にあたらねばと感じました。これからも、みなさんのよりいっそうのご指導、ご協力をお願いして御礼とお祝いの言葉にかえさせていただきます。



害虫相談委員会(害虫相談委員長:玉田昭男、30年史より転載)

1985(昭和60)年、(社)日本ペストコントロール協会は6月4日を「虫の日」、6月4日～7月4日を「ムシナシ月間」(ねずみ・衛生害虫駆除推進月間)と定め、47都道府県協会で害虫相談所の開設と、ムシの日イベントを行うこととしました。これを受けて当協会では、会員に公募した結果、54社の賛同を得て害虫相談所がスタートしました。年1回の講習会により、相談員の資質向上を図るとともに、各区・保健所の環境衛生窓口に害虫リーフレットを配置し、都民への広報に努めてまいりました。平成4年には新宿駅北通路内で「ムシの日」イベントを開催し、写真パネル展示、ビデオ放映、無料害虫相談所の開設、コンパニオンによるパンフレット、ボールペンの配布を行い、以後、中野区役所前、新宿駅西口ギャラリー、インフォメーションセンターで毎年実施しております。現在、相談所は64社となり、平成11年度の害虫相談件数は1,620件と、最高を記録しました。



また、昭和62(1987)年4月に、都下の水害等の災害に備え、緊急災害衛生隊を組織しました。平成10(1998)年には、都内5区(港区、目黒区、渋谷区、中野区、新宿区)と契約も広がり、7月に合同の連絡会議を開催し、仕様や緊急連絡網の確認を行い、出動の細部調整を行いました。

平成11(1999)年2月には、(財)東京都環境衛生営業指導センターと都内の環境衛生同業組合が主催する「第6回東京環衛フェア」に初めて出展し、大きな反響を得ました。今後も都民が害虫に悩まされることなく、また、安全に暮らせるよう、当相談所を発展させていく所存でありますので、会員の皆様のご協力お願い申し上げます。